

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

〇10月9日～

先週はドル／円が 150 円台をつけた後に急落するという大きな動きがありました。

150円を超えると介入警戒感から荒い動きが出るリスクが高まりそうです。

また、先週は他のマーケットでも株価が下落したり、原油が急落したりと大きな動きが出ています。

10月は相場の世界では暴落が起きやすく、特に株価の動きには注意がいります。

去年は為替相場でもドル／円が150円を超えたかと思ったら、年末にかけて大暴落となり、130円あたりまで下落するという波乱もありました。

今年はどうなるかわかりませんが先週の動きを見ると、あまり楽観的なシナリオだけを考えるのは危険です。

米国の長期金利の上昇が続いていることで米国株の動きが悪くなっています。

米国の長期金利が5%を超えていく場合は、株価や米国経済への影響が心配です。

先週発表された米国の雇用統計の結果、一時は株が急落しましたが終値にかけて米国株は上昇に転じました。今週は米国株の上昇が続くかどうか重要です。

米国の株価の下落が止まらなるとリスク回避的な動きになりやすいので注意がいります。

今週は米国では、消費者物価指数などがあります。

インフレ率はおさまりつつありますがFRBはまだ年内1回程度の利上げを想定しているため再度インフレリスクが高まると利上げ期待が高まります。

また、政治的なイベントとして米国のマッカーサー下院議長が解任されたことで、新しい下院議長が誰になるかも重要です。

11月半ばにつなぎ予算の期限が来るため再び政府機関閉鎖などの問題が浮上するとマーケットの混乱要因となります。

9日は日本も祝日ですが米国もコロンブス・デーで祝日となります。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル／円>

先週は 150 円をつけた後、急落しました。

介入ではなかったようですが150円を超えて急な動きが出れば、いつ介入するかわからないリスクがあります。

トレンドは上昇トレンドが続いているため戦略は買い戦略で考え、下がったところを狙って買いを入れていきたいと思います。

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

下値は、148 円台では買いが入りやすく、先週急落した時の安値の 147 円台半ばを1つの目安としたいです。

9 月 22 日の安値の147. 3円あたりを下回ってくると流れが変わってくるリスクがあるため買いは慎重になりたいです。

逆に、147 円台後半や 148 円を維持できれば 150 円を超えていく可能性があります。

ただし、150 円台での買いは今のところリスクが高く、高値更新したら買っていきようなブレイク買い戦略は避けたいです。

<気になるクロス円>

クロス円も先週後半は上昇しているペアが多く、週明けからこの流れが続くかどうか注目したいです。

今の相場は円安(円に対して、外貨が上がる)という動きより、ドル高(ドルに対して円や他の外貨が下がる)という動きのためクロス円もあまり大きく上昇していくイメージは持ちにくいです。

ドル高となっているのは米国の金利上昇が続いていることと他の国よりは経済が強いからです。

ユーロやポンドも円に対しては高値圏で推移していますが介入リスクも出てきているため大幅上昇というよりは、高値圏でじわじわと上昇するかヨコヨコで停滞した動きになる可能性があります。

豪ドルは 8 月以降、93-97円程度のレンジを動いています。今後、レンジをどちらにブレイクするかも見ておく必要があります。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称:〇〇/円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では 8 月貿易収支、8 月機械受注などがあります。

米国では 9 月卸売物価指数、FOMC議事要旨、9 月消費者物価指数、前週分新規失業保険申請件数、9 月月次財政収支、10 月ミシガン大学消費者信頼感指数などが発表されます。

欧州ではユーロ圏とドイツで 8 月鉱工業生産、ユーロ圏で欧州中央銀行(ECB)理事会議事要旨、ドイツで 9 月消費者物価指数などがあります。

ほかには英国で 8 月 GDP の発表などがあります。